

2019年度日本フンボルト協会第三回常務理事会議事録

日 時：2019年12月21日（土）14時～16時30分

場 所：名古屋工業大学 2号館 11階ラウンジ

参加者：伊藤 眞（理事長）、縣 公一郎（副理事長）、西川 伸一（副理事長、関西支部長）、
浅田 和茂（副理事長）、伏木 信次、広渡 清吾、井田 良（関東甲信越支部長）、
岡林 洋、櫻田 嘉章、高橋 宗五、高橋 輝暁、高橋 義人、高山 佳奈子、種村 眞幸、
鏝田 武志、和田 肇（中部支部長）、関 映子（事務局）合計17名

審議事項

- (1) 来年度の総会について来年度総会のプログラムについて、伊藤理事長から説明があり、審議の結果、以下の要領で行うことが承認された。なお、未定の事項については、次回常務理事会までに調整することとなった。

日本フンボルト協会 2020年度年次総会

日 時：2020年6月6日（土）

場 所：京都府立医科大学 図書館ホール

13:20-14:00：2020年度会員総会

14:00-15:00：講演会

演者：澤 芳樹教授（大阪大学医学部心臓外科）

題目：再生医学とIPS —当事者の立場から—（仮題）

- ・本協会会員だけでなく一般参加者も含めた講演会とし、澤教授による講演（20分）の後、西川副理事長との対談、質疑応答（40分）の構成とすることで最終的な調整をする。

15:00-17:30：ドイツ研究留学説明会

全体説明会（15:00-15:45）

1. ドイツ研究留学説明会について：鏝田常務理事
2. フンボルト奨学金の紹介：井田常務理事
3. DAAD奨学金の紹介：DAAD担当者

専門分野別分科会（16:00-17:30）

- ・分科会は従来通り、人文科学、社会科学、理工学、生命科学、医学、DAAD奨学金とし、各分科会の司会者、若手留学経験者等の人選は、関西支部を中心に本部と連携して行うことになった。
- ・DAADの分科会では、以前は円卓方式で参加者全員に説明する形式であったが、一昨年より個別相談の形式になった。その結果、待ち時間が長く相談できる時間が短いといった不満がアンケートで散見されるため、このことをDAAD担当者に伝え、対応をお願いすることとした。

15:00-17:30 : 会員向け談話会 or ワークショップ (留学説明会と併行して行う)

- ・懇談会 or ワークショップについては、関西支部で複数の企画が検討されており、次回常務理事会までに調整されることになった。

<留学説明会関連の主な意見等>

- ・留学経験のある人を優先的に採用しようという文科省の動きもあるので、徐々に留学希望者が増えていくことも予想されるが、一方で、各大学等で種々の留学プログラムが設定されており、採択が難しいとされるフンボルト財団奨学金が、ドイツ留学のための有力な手段ではなくなっている現状がある。
- ・フンボルト留学から帰国後のポストク支援の重要性はフンボルト財団も認識しているが、日本人ポストク支援をフンボルト財団 (ドイツ側の資金) が行うことは、Pape 財団理事長の見解では、かなり難しいとのこと。
- ・関西支部では、OB、OG の多い大学で、重点的に留学説明会および留学支援を行う方向で計画されている。
- ・上記の意見を踏まえ、2020 年度は、従来通りの構成で留学説明会を実施するが、長期的な視点から、説明会のあり方については、エフォート対効果なども考慮し引き続き検討することとなった。

17:30-18:00 : ピアノコンサート

曲目 : 未定

奏者 : 砂原 悟 氏 (内諾済み)

18:30-20:00 : レセプション (於 : 京都府立医科大学 附属病院 ^{かざはな} 風花)

ドイツ大使またはドイツ総領事の出席を調整中。

(2) 日独共同研究奨学金について

伊藤理事長から以下の説明があり、特に、目標額を超えた寄付金及び今後の募金活動等については、審議の結果、以下の通りとなった。

1) 募金の現状について

目標金額 : 1200 万円 (奨学金基金 1000 万円、財政安定化基金 200 万円)

募金合計 : 1255 万円 (外部の個人・企業 : 484 万円、会員から : 771 万円 (239 名))、

2019 年度執行額 : 50 万円 (1 件分、2020 年 3 月に 50 万円執行予定)

目標額を超えた寄付金、および今後の募金継続について :

- ・目標額を超えた寄付金については日独共同研究奨学金基金に組み入れる。
- ・寄付金関連の執行費用 (寄付振込手数料、同奨学金パンフレット作製費用、事務費等) は、同基金から協会一般会計に返金する。
- ・寄付は今後とも随時受け入れることとし、寄付の公募要領などの改訂を必要に応じて行う。

2020 年度日独共同研究奨学金の応募について：

- ・ 同奨学金に対する多数の応募を募るために、前回不採択に終わった応募者にも、再応募を促すなどの方策を取る。
- ・ 協会ホームページに、2020 年度の募集について速やかに掲載し、会員に周知し応募を促す。

2) 2019 年度授与式について（報告）

- ・ 事務局から、9 月 12 日 11 時、DAAD 東京事務所にて、本年度採択された共同研究（Lee 博士と田中 慎教授）に奨学金（50 万円）が授与されたこと、また 2020 年 3 月 2 日 11 時、DAAD 東京事務所で、もう一件の共同研究（Varga 博士と赤木 剛朗教授）に授与式が行われることが報告された。

(3) フンボルト財団理事長 Prof. Dr. Hans-Christian Pape 氏の来日（2019.10.27-29）（報告）

- ・ 事務局から、北京で開催されたフンボルトコロキウム参加の帰路、Pape 理事長が日本担当の Frau Schildt と日本を初訪問し、財団の主催で、東京在住の日本フンボルト協会会員（18 名）と意見交換の場が設けられたこと、また、翌日は同理事長と Frau Schildt は、JSPS、東大医学部、ソニーのサイエンスラボ等を訪問し、好印象を持ち帰国したことが報告された。

(4) 会計について

- ・ 高橋宗五 会計担当常務理事から、現時点での会計状況について報告があり了承された。また、会費納入率を上げるため、未納者には再度メールで依頼することになった。

1) 会計収支の現状報告

2019 年度予算：収入：488 万円、支出：488 万円

現在の経過：収入：468 万円、支出：468 万円（執行額）支出については予定通りに推移。

2) 年会費納入状況

2019 年度会費納入状況：4000 円 x 587 名（全会員（1492 名）の約 39%）

会費納入会員数の推移：(2013 年)785 名/ (2014)730 名/ (2015)797 名/ (2016)698 名/
(2017)635 名/ (2018)632 名/ (2019)587 名

<関連意見等>

- ・ データ訂正を依頼してくる会員に未納者が散見される。
- ・ 質問：会費納入に年齢の上限はあるのか？－退会の意思表示がない限りは会費納入依頼を送付する。本協会への入会も自動入会ではなく、入会の意思確認を最近は行っている。

(5) その他

1) 佐々木 毅先生（日本フンボルト協会顧問）の 2019 年度文化勲章受章について

- ・ 佐々木毅先生の文化勲章受章に対し、本協会として祝意を表すために、広渡常務理事が作成した祝賀の文章を協会 HP に掲載することが承認された。

2) 日本フンボルト協会のロゴ作成について（意見交換）（別添資料5）（西川関西支部長）

- ・本協会のロゴについて、西川副理事長が依頼したデザイナーから2案が提案され、審議の結果、他の案も含めて、引き続き検討することとなった。

3) 支部活動について

a) 各支部の今後の予定について、各支部から報告があった。

（関東甲信越支部）

- ・来年3月14日に総会（於：富山県赤坂会館）を予定。講演会は、浦川道太郎会員（早稲田大学名誉教授）による「自動運転をめぐる法的問題（仮題）」を予定。
- ・支部ホームページを鋭意準備中。

（関西支部）

- ・来年2月に総会（於：平安女学院）を予定。併せて最近の放射線治療についての講演会、ドイツのがん治療についての討論会を実施予定。
- ・フンボルト奨学生OB、OGによる講師の協力を得て、支部主催の留学説明会を実施する予定。また、今後は大学レベルで説明会を実施できるようにする予定。
- ・関西支部のホームページの情報(特に役員リスト)については速やかに更新する。

（中部支部）

- ・来年1月25日に支部主催の留学説明会を実施予定（於：名大。名大と共催）。高山常務理事によるドイツ留学全般の説明を予定しており、本企画を協会HPのトップページに掲載する予定。

（東北支部）

- ・本年度支部総会は、台風のため中止。

b) 支部助成金のあり方について（意見交換）：

支部助成金は、これまで各支部に定額で配分してきたが、現状の協会財政を鑑み、別の方式（支部からの当該年次の活動予定に基づく申請を受け、常務理事会で審議し配分する方式など）が考えられる。その場合、各支部の事情や実情（例：常務理事会に出席する交通費負担の支援が必要、また、支部によっては講演会などよりも同窓会色を強めたほうが会員も出席しやすい）なども考慮し、支部活動に支障をきたす事態とならないよう、引き続き慎重に検討することになった。

<関連意見等>

- ・地方支部では、常務理事会出席等の交通費支援などが必要だろう。
- ・助成金支給に際しては、繰越金が過剰に増えないようにする。例えば、繰越金が支給額を超えた場合には減額支給してはどうか。
- ・支部の活動を何らかの形で支援するのは、本部として必要である。
- ・例えば、中四国支部の活動の実情などについて、本部（事務局）が、当該支部長と改めて意見聴取などを行い、支部活動を行いやすい方策を、支部と協力して行っては？
⇒ 当該支部長とも面談できるような機会を作り意見聴取を行う（事務局で対応）。

- ・各支部長の意向を尊重しつつ支部範囲の決め方も要再考しては。その場合、支部の数を現状（7支部）より増やすことは避けるべき。

4) 会員データについて

事務局から会員データの修正作業について以下の報告があり了承された。

- ・データの修正作業が終了したので各支部に会員リストを送付予定。約 100 名の訂正は終了したので、支部長あてに送付する。但し、役員の中でのデータ共有は構わないがそれ以外への提供は厳禁。
- ・新会員候補の Humboldtianer を事務局で検索中。

<関連意見>

- ・関西支部は、会員データを留学説明会ともリンクさせて活用したい。
- ・留学中の Humboldtianer に日本フンボルト協会について周知する方策を検討すべき。例えば、留学時点で準会員（会費不徴収）扱いにする方策などを検討すべき。フンボルト本部は、ドイツ留学中にはメールアドレスを把握しているはず。
⇒ 財団本部と日本フンボルト協会の情報共有の仕組みの構築が必要。また、採択者が公開された時点で、そこに記載のメールアドレスに先ずコンタクトする方法もある。

5) 神林 恒道 監事の交代について

西川支部長から、関西支部で、神林監事の体調などを考慮し、任期途中の交代を検討しており、次の関西支部総会で後任も含めて決定する予定である旨の報告があり了承された。

6) 学術国際化フォーラム（ベルリン；英語）の出席報告

縣副理事長から、フンボルト財団主催の上記フォーラムに出席し、「日独学術交流の現状と展望」の講演の中で、本協会が創設した日独共同研究奨学金についても披露した旨の報告があった。

7) 次回の常務理事会開催日程、会場について

次回常務理事会は、以下の要領で開催することが了承された。

日 時： 2020 年 4 月 4 日（土）14-17 時

場 所： ドイツ文化会館内 DAAD 会議室（予定）

なお、今後の会議の開催方法として、今後は Skype 等を用いた web 会議等での開催を探ることとし、次回の常務理事会の会場（ドイツ文化会館内 DAAD 会議室）については、DAAD 事務局担当者に問い合わせることとなった。

（以上）